

---

# 第一二三話

## 春日行幸事

『前太平記』上 卷第十八 三七一頁から三七三頁より

---

今年も季節が移って行って、永延三年三月二十三日、一条天皇が春日神社にお出  
かけになる。藤原氏はこの社の氏人であることにより、左大臣・右大臣から始め、  
藤原一族の公卿や殿上人が、それぞれ華々しく身づくろいをし、連なってお供なさ

声花に粧ひ

連れて供奉せらる。

れる。後乗 (巻) には周防守源頼親朝臣を連れ立たせられた。これがこの社へのお出  
かけの始まりである。

そもそもこのお宮の神様と申し上げる方は、津速産霊神の孫で、天児屋根命が姿  
を変えたものである。我が国の朝廷は、天孫降臨なされる時、天太玉命と共に天照  
大神の命を受けて、左右の翼のような手助けとして政治を補佐し、人皇になって痕  
跡を河内国平岡にお示し (式) になる。その後人皇四八代目となる、称徳天皇の御代  
の神護景雲二年正月九日にこの三笠山 (参) で、本宮を山頂に御鎮座になる。同年十  
一月九日、神殿が初めて造られ、四つの社と共にまつた。一つ目の社は武雷命を  
まつる。本来の姿は、釈迦牟尼如来である。常陸国鹿島神宮 (肆) より現れたもので  
ある。二つ目の社は磐井主命をまつる。本来の姿は、薬師如来である。三つ目の社

は天児屋根命。本来の姿は、地蔵菩薩である。地神五代 (伍) の一柱、ウガヤフキア  
エズノミコトがご誕生の時、この神は鷓鴣 (陸) の羽を草と変え、産屋をご造営にな  
ったが、棟瓦がまだ覆われてなかなかかった時、子がお生まれになられたので、尊不  
合命とお名づけ申し上げ、この神を天児屋根命とお名づけ申し上げる。四つ目の社  
は、姫大神主命と申し上げて、下総国香取明神 (漆) のことでいらっしゃる。本来の  
姿は、大悲観世音菩薩である。それゆえ春日四所明神として法相宗 (捌) のご加護を  
加え、五重唯識 (玖) の恩徳が届かないというところはなく、すみずみまで人々教え  
導き、永久に帝位を守り、測りがたき恵みは穏やかで、藤の咲く門前のひとときわ色

藤咲く門の色添ふる、

濃い、朱い玉垣はかがやくように美しく、永久を引き結び始める御注連縄、その社

朱の玉垣綺羅らかに、

千代を引き初む御注連縄、

の名も長く重ねていき、霜のように白い幣を心にかけて思うのも、尊い神の榊の葉

其名も長く重ねこし、

霜の白幣掛けまくも、

賢き神の榊葉も、

も、茂っている木々の緑は濃く、陰深くあれと植えておいた下葉の塵に入り混じっ

茂れる木々の緑濃く、

陰深かれと植ゑ置きし、

下葉の塵に交はれる、

た、穏やかな威光の明かりがぼんやりとして、禰宜が袖を振り鳴る鈴の音が、長い

和光の燈風にて

宜禰が袖振る鈴の音

長夜の

夜の眠りをさまし、みだらな思いの雲を払って、過去から常に存在する月は明る

睡りを覚まし、

妄想の迷雲を払ふて、

本有常住の月明らかに、

く、三笠山は囲むように聳え立ち社殿を囲み、猿沢の池 (拾) の水は、満ち満ちて藍

三笠山は環峙として社壇を繞り、

猿沢の池水は、

色に覆われている。眺めは非常に優れていて、立ち去りがたい瑞垣にある内にも外

湛へて藍を浸せり。

眺望太だ妙絶にして、

立ち去り難き瑞籬の内外に

にも輝く庭の篝火に至るまで、心に直接しみるような取り結びである。

輝くにはひまで、

信感を添ふる媒なり。

こうして一条帝は神殿にお入りになって、自ら幣帛をお捧げになって、天下泰平と、人民繁栄の祈願を丹念に行いなさった（神への）渴仰のご様子は、どうして神も受け入れないだろうかと、神の思し召しも推しはかられた（ことだろう）。

---

## 注釈

※壺・後乗……ここでは藤原氏の一族のあとに続く車馬。

※武・河内国平岡にお示し……大阪府東大阪市出雲井町の枚岡神社は天兒屋根命を祀る河内国一宮。

※参・三笠山……奈良県奈良市東部に位置する。西の麓に春日大社がある。

※肆・常陸国鹿島神宮……茨城県鹿嶋市宮中の元官幣社で、常陸国一宮。天兒屋根命・武雷命を祀る。

※伍・地神五代……皇室の祖先とされる五柱の神の時代を言い、五柱の神は、天照大神・天忍穗耳尊・瓊瓊杵尊・彦火火出見尊・ウガヤフキアエズノミコト。

※陸・鷓鴣……水鳥の名前。

※漆・下総国香取明神……千葉県佐原市香取の元官幣社で、下総国一宮。祭神は経津主大神だが、一説には武雷命・天兒屋根命・比売神（姫大神主命）を祀るともいわれる。

※捌・法相宗……八宗（仏教の宗派）の一つ。唐の玄奘を開祖。

※※※訳の引用・スクリーンショットなどは、作品名及び本サイトのURL（月下庵/<https://gekkaanzentaiheiki.wixsite.com/mysite>）をご記載いただけましたらご自由にさせていただいて結構です。※※※

※玖・五重唯識……法相宗の唯識の教えを五段階区別したもの。唯識は、現世にあるものは自身の心がつくりだしたかりそめのものであるとする教え。

※拾・猿沢の池……奈良市の興福寺の南、春日大社の東に位置する池。

---

感想・指摘・叱咤激励、随時受け付けております。Twitter やメール等でご連絡ください m(\_\_)m

公開：2019/10/25

改訂：2021/3  
海熊童子